

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300142
法人名	医療法人 三寿会
事業所名	グループホーム岩松
所在地	愛媛県宇和島市津島町岩松823番地
自己評価作成日	H27年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

良好な人間関係と家庭的な生活環境の中で日常生活が過ごせるよう支援し、常に家族と連携を図り、地域の方々との交流の機会を確保します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート3階建ての建物の、1階2階にグループホーム、1階に法人の医院を開設しており、3階は医師である法人代表者の住まいとなっている。療養病床から移行した事業所であり、開設1年目で地域の医療福祉ニーズにも十分応えることができている。重度化した利用者も多いため利用者の健康状態を常に確認しているなどチェック体制が整っている。また、医療、看護、介護の充実した体制は整っているため、利用者や家族の希望にも沿えるよう看取りにも積極的に取り組んでおり非常に高く評価できる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム岩松

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏 名 梶原 喜久美

評価完了日 H27 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域住民との交流のもとで、尊厳ある自立した日常生活を営むことができるよう援助を行うという理念のもと、職員全員が認識し、実践している。 (外部評価) 開設当初に作られた理念は、家族や地域とのつながりと、今までの生活の延長として、利用者の生活を支援することを大切にして、職員全員で話し合いをして作成している。各ユニットに理念を掲示している。	理念について、職員間で話し合いの機会を持ち、振り返りを行いながら理解を深められ、利用者の日々の暮らしを支えられるように期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 季節のイベント等の行事に入所者、職員が参加している。 (外部評価) 町内会に加入しているので行事の案内等もあり、地元の敬老会に出席したりするなど地域との交流を積極的に行っている。また、地域のイベントでおひな様行列があり、保育園児と一緒に写真を撮ったり、秋祭りに神輿を見たり、利用者として職員にとって楽しい行事の一つになっている。今後は、保育園との交流やボランティアを積極的に受け入れることを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 施設内でのイベント参加のお知らせをし、遊びに来てもらうよう努める。	

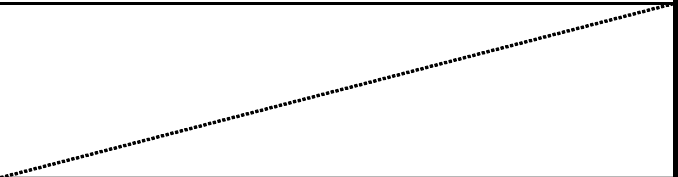
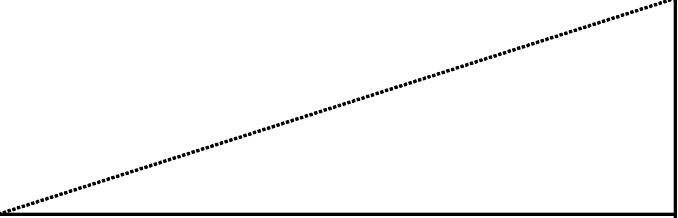
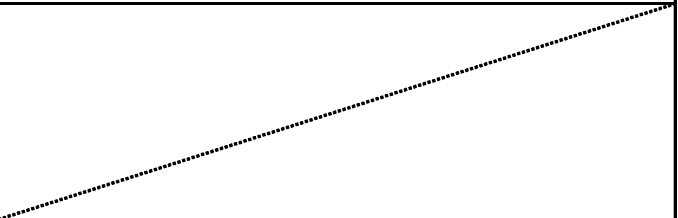
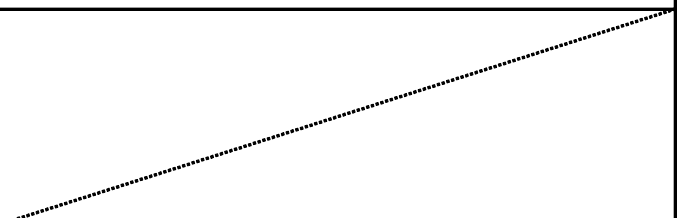
自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回、運営推進委員会を行い、活動報告や取り組みについて意見交換を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、町内会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター長等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、入居者情報及び活動報告を行うと共に、参加者からの意見をもらいながらサービスの向上に繋げている。	運営推進会議における参加者からの意見は出ているようであるが、家族や地域の関係者があまり参加していないため意見の偏りがあるので、事業所の活動内容についてより多くの人に理解を深めてもらう意味でも、参加していない家族や地域の方への働きかけを行うなど、幅広い意見の集約ができるような取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議での報告や協力をお願いをする。	
			(外部評価) 市職員は、運営推進会議に出席し事業所の実情を把握すると共に、事業所職員との意見交換を図るなど交流している。また、市主催の研修会に職員が参加し、分からないことや疑問がある場合には、その都度相談に行って協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束を行わない、自由な暮らしを支援する。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてのマニュアルを作成しており、玄関の施錠をしないなど、身体拘束をしないという方針が根付いている。今までに、1人で外出し迷った利用者もいるが、地域の方の協力を得て無事帰ることができている。また、利用者に対し言葉の拘束にならないよう十分気を付けている。	職員一人ひとりが、利用者の安全確保及び自由な暮らしの支援を目標に「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をより理解するよう努めると共に、職員会で話し合う機会を多く持ったり、職員の資質向上のための勉強会等を継続的に行うことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止についての理解を深め、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要としている該当者がいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 書面を利用し、十分な説明を行い契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情相談窓口を設置し、意見箱を設けている。 苦情相談等あれば、対応策を示す。 (外部評価) 家族には面会時に確認したり、運営推進会議等で要望や意見を聞いており、出された意見は、職員間での話し合いを行い、利用者のサービス向上に活かしている。利用者や家族、代表者、職員が参加の親睦会を開催し、食事を一緒に食べながら話をし、家族からの意見の集約をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回行うミーティングにて、意見交換、提案を聞く機会を設けている。 (外部評価) 職員全員で、月1回ミーティングを開催し、利用者に関する事故報告や改善対策等の意見交換を行っている。また、気づきノートに利用者の日頃の様子等をこまめに記入し、職員間で情報の共有を行うなど普段から職員が管理者に意見を気軽に言える環境が整えられている。また、資格取得についても積極的に支援しており、職員からの希望があれば随時対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員各人の日頃の努力や勤務状況等を把握し、働きがいのある職場環境を作る。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員が働きながら技術や知識を身につけていくことを支援する。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 取組みが出来ていないので、活動を通じて意見交換を行えるよう努力していく。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人に向き合いながら関係を築くことに努める。本人の声に耳を傾けたりする。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談にてお話を聞き、必要としている支援を見極める。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 入所出来ない場合、早急な支援が必要な場合、他施設サー ビスについての説明を行う。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 家族として一緒に生活しているという関係を作り、出来る事 は一緒にしてもらう。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者、家族、職員の信頼関係が築けるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 出来る範囲での対応を行っている。 (外部評価) 利用者の知人や友達が面会に来ている。また、入居前に生活 していた自宅やお墓が気になる利用者は、家族に協力しても らい家やお墓参りに行っており、利用者の希望が叶えられる よう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が支えあって暮らしていくことの大切さ、利用者が暮らしを楽しめるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて本人の状況、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、暮らし方の継続性に配慮してもらえるよう支援する。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員全員が一人ひとりの思いや以降について関心をはらい、把握しようと努めている。 (外部評価) 職員は、利用者や家族の思いや要望を聞き取り、申し送りノートに記録し、職員間で情報を共有している。また、認知症の進行により意思疎通困難な利用者は、声かけしながら表情や行動等で思いや意向の把握に努めている。	利用者の個々の思いや意向の理解を深めるために、職員の気づきや利用者の言葉や行動を記録に残すと共に、ケアの振り返りを行うなど、利用者ケアの質のさらなる向上が図られることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族と馴染みの関係を築きながら、これまでの暮らしを捉え、自分らしく暮らせるよう支援する。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の暮らしの中で、本人の出来る力、わかる力の発見に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画を作成し、状態に変化があればその都度見直しを行っている。 (外部評価) 介護支援専門員が介護計画を作成しており、介護計画には認知症ケアにかかわることが事細かく記載されており、試行錯誤により、よりよいケアに取り組んでいることが伺え、介護計画は個別のファイルに綴り、どの職員でも把握できるように努めている。	 介護計画は、利用者がよりよく暮らせるようになるため見直しをすることが基本であるが、介護計画の見直しに活かせるような記録の取り方にはなっていないので、介護記録の書き方について職員間でよく話し合うことにより、介護計画に活かし利用者本位のケアに繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の言動やそれに対しての対応を個別に記録し、申し送りや介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個別の要望に出来る限り対応出来るよう努める。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の人や場の力を借りた取り組みをしているか確認する。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) W/1回の往診あり、適切な医療を受けられるように支援して いる。 (外部評価) 運営法人の内科医院内に開設されており、往診体制も整って いる。ほとんどが医院の受診者であるため、かかりつけ医に している利用者が多い。また、眼科、外科、整形外科の専門 外来を通院する利用者は、家族の付き添いにより通院してい るが、家族の都合が悪い場合は、職員が付き添う等の支援を している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は情報や気づきを看護職員に伝えて相談し、適切な 受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 家族等と相談しながら医療機関に対して本人に関する情報の 提供等を行い、スムーズに退院出来るよう支援を行う。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 施設内で出来ることを十分に説明し、現状でどこまで支援出 来るかチームで話し合う。 (外部評価) 療養病床から移行した事業所で、法人の医院が1階にあるた め、経験豊富な看護師も多く看護体制も充実し、終日医療体 制が整っているため、終末期ケアについては、家族も安心し て任すことができおり、利用者や家族の要望により3名の 終末期のケアを行っている。	地域の医療環境の事情から、事業所における重度化や 終末期に向けた支援の必要性は高く、地域からも期待 されており一目置かれた存在である。「重度化及び看 取りに関する指針」を整備し、職員間で話し合いの機 会を増やすなどし支援に役立てて欲しい。今後は、重 度化や終末期に向けた研修会や勉強会を行うなど職員 の不安軽減に繋がる取組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全ての職員が応急手当や初期対応の定期的な訓練は出来ていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練、消火訓練、通報訓練を年2回行っている。 (外部評価) 夜間想定も含め、年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。緊急時における地域の協力については、話す機会を設けるよう努めており、高齢者が多いため難しい面もあるが、災害時に事業所が地域の避難場所として指定されていることもあり町内会との連携は図られている。緊急連絡網の作成はしているが、訓練までには至っていないので今後は緊急連絡を含めた訓練を予定している。また、備蓄品は十分備えられている。	事業所の災害対策について、災害時の職員緊急連絡網が整備されているが、実践の訓練をしていないので、連絡体制を再確認する意味でも職員への周知徹底を含めた訓練ができることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の生活の中で言動に配慮し、一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。 (外部評価) 日常ケアのあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう声かけ等に気をつけている。また、目を見て背中をさすりながら利用者のプライドを傷つけないように接するなど、利用者が心身ともに良い状態で生活できるよう支援しており、排泄時や入浴時の羞恥心への配慮もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中で言動に配慮する。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自己決定が出来るように声かけをするように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分のお気に入りの物があれば、それを着用してもらうように対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各ユニットのキッチンにて一緒に会話を楽しみながら楽しく食事が出来るよう対応している。	
			(外部評価) 事業所内の厨房で調理の上配膳し、利用者の状態に合わせた食事形態にも随時対応しており、利用者と一緒におやつを手作りしたりもしている。胃ろう等の経管栄養については、看護師による管理ができています。また、家族とは一緒に外食を楽しめているが、今後は事業所としても外食の機会を持つなど利用者がより食事を楽しめるよう支援したいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 状態によって食材の変更、形状の変更を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 義歯は夕食後ブラッシングを行い、ポリデント洗浄している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間にてトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて排泄チェック表により管理しており、利用者の尊厳には十分配慮の上声かけをしトイレ誘導をしている。また、重度化した利用者にはおむつの使用者も多いため、身体状態に配慮しながら一人ひとりに合った排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄表にてチェックを行い、服薬、飲食物などにて工夫をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日13:30～入ることが出来るが全介助必要な方が多い為、職員の都合になってしまう事がある。	
			(外部評価) 浴室は広くゆったりとし、座位バランスがとりやすい家庭浴槽となっており、一人づつ声かけを行いながら、週2回安全に入浴できるようになっている。身体状態に合わせて数名の職員が介助する体制を整え支援している。また、一人ひとりの好みのシャンプー、リンス、ボディソープ等を用意し入浴を楽しんでいるが、入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく外出から帰った時に声かけするなど、工夫をし入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼寝されている方は無理に起こさないで、その方の気分、体調に合わせるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) バイタルチェックにて、内服されている薬の状態(特に血圧の薬)確認。内服されている薬の理解に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一緒に洗濯物をたたんでもらったり、出来る事をして頂く。その方の持っている力を活かした日々を支援する。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 戸外に出かけることが可能な方の希望あれば、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 (外部評価) 天気のよい日には、近所を散歩したり花見に行ったり、利用者の要望に応じ気分転換が図れるよう支援している。また、重度化した利用者は、本人の希望があっても外出が困難であるが、家族の協力により希望を叶えられるよう支援している。	管理者も含め職員は、利用者の外出の大切さは理解しているため、今後は外出する機会を増やし、一人でも多くの利用者が外出を楽しめるようになることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持や使うことに支援はしていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、外部との交流を支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ユニット内、バリアフリーとなっており、危険物排除に努めている。 季節 の花を飾り、季節を感じてもらう。 (外部評価) 廊下が広いので、ゆったりと歩くことができる。2階の広々としたリビングルームには、広い食卓と椅子が置かれ、3方向を広い窓ガラスで囲まれているため、光がたくさん取り込まれ明るく開放感がある。また、季節感のあるクリスマスツリーが飾られていたり、利用者は思い思いの場所で落ち着いた気分であつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者同士キッチンでお話しをされたり、部屋訪問されたりして過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は自分の愛着のある物を置いてもらい、居心地良く過ごせるようにしている。 (外部評価) 居室には、ベッド、床頭台、エアコン、整理ダンスが備え付けられている。転倒リスクの高い利用者には、ベッドの高さが調節できるようになっている。自宅で愛用していた籐椅子や位牌を持ち込んでいる利用者もいる。また、出入口には利用者が自分の居室がわかりやすいよう暖簾が掛けられるなどの配慮が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 危険物排除、出来る事は行ってもらおうようにする。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300142
法人名	医療法人 三寿会
事業所名	グループホーム岩松
所在地	愛媛県宇和島市津島町岩松823番地
自己評価作成日	H27年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

良好な人間関係と家庭的な生活環境の中で日常生活が過ごせるよう支援し、常に家族と連携を図り、地域の方々との交流の機会を確保します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート3階建ての建物の、1階2階にグループホーム、1階に法人の医院を開設しており、3階は医師である法人代表者の住まいとなっている。療養病床から移行した事業所であり、開設1年目で地域の医療福祉ニーズにも十分応えることができている。重度化した利用者も多いため利用者の健康状態を常に確認しているなどチェック体制が整っている。また、医療、看護、介護の充実した体制は整っているため、利用者や家族の希望にも沿えるよう看取りにも積極的に取り組んでおり非常に高く評価できる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム岩松

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)

氏 名 朝倉 美恵

評価完了日 H 27 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域住民との交流のもと、尊厳ある暮らしを営むことが出来るよう援助を行う。という理念のもと、職員全員が認識し、実践している。 (外部評価) 開設当初に作られた理念は、家族や地域とのつながりと、今までの生活の延長として、利用者の生活を支援することを大切にして、職員全員で話し合いをして作成している。各ユニットに理念を掲示している。	理念について、職員間で話し合いの機会を持ち、振り返りを行いながら理解を深められ、利用者の日々の暮らしを支えられるように期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事や消防訓練に参加し、利用者が生き生き暮らせるよう協力しているが、地域の方の訪問は限られるので、今後秋祭りのみこしなど交流を持ちたい。 (外部評価) 町内会に加入しているので行事の案内等もあり、地元の敬老会に出席したりするなど地域との交流を積極的に行っている。また、地域のイベントでおひな様行列があり、保育園児と一緒に写真を撮ったり、秋祭りに神輿を見たり、利用者として楽しむ行事の一つになっている。今後は、保育園との交流やボランティアを積極的に受け入れることを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症について家族と話し合う機会があったが、地域の人々に向けての対応はできていないので、相談あれば、対応していきたい。	

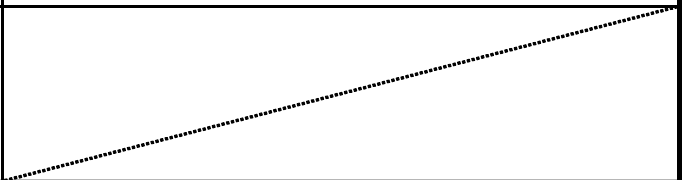
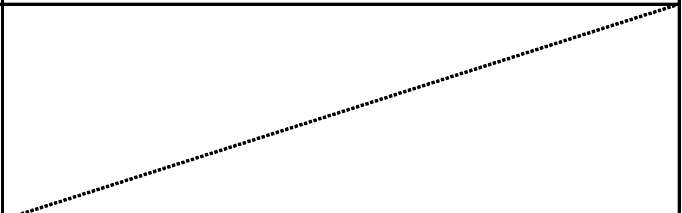
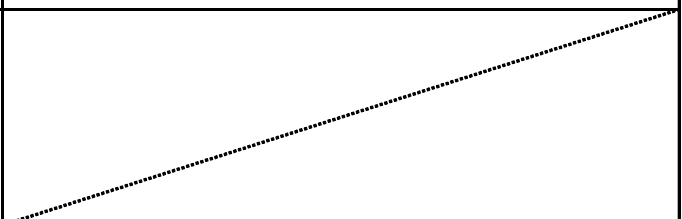
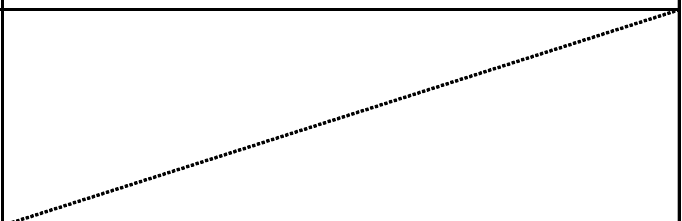
自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 推進会議に参加できる方が限られており、多方面からの意見を聞くことが難しい。職員も積極的に参加し柔軟にサービス対応したい。 (外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、町内会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター長等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、入居者情報及び活動報告を行うと共に、参加者からの意見をもらいながらサービスの向上に繋げている。	運営推進会議における参加者からの意見は出ているようであるが、家族や地域の関係者があまり参加していないため意見の偏りがあるので、事業所の活動内容についてより多くの人に理解を深めてもらう意味でも、参加していない家族や地域の方への働きかけを行うなど、幅広い意見の集約ができるような取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議に担当者に参加してもらい、相談や意見を頂いている。 (外部評価) 市職員は、運営推進会議に出席し事業所の実情を把握すると共に、事業所職員との意見交換を図るなど交流している。また、市主催の研修会に職員が参加し、分からないことや疑問がある場合には、その都度相談に行き協力関係を築いている。	市職員は、運営推進会議に出席し事業所の実情を把握すると共に、事業所職員との意見交換を図るなど交流している。また、市主催の研修会に職員が参加し、分からないことや疑問がある場合には、その都度相談に行き協力関係を築いている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間に裏の出入り口を防犯も兼ね施錠している。また日々身体観察に努め、異変に気づける様職員同士意見を交わし、事故報告があった場合防止できるよう会議の場を持つ。 (外部評価) 身体拘束をしないケアについてのマニュアルを作成しており、玄関の施錠をしないなど、身体拘束をしないという方針が根付いている。今までに、1人で外出し迷った利用者もいるが、地域の方の協力を得て無事帰ることができている。また、利用者に対し言葉の拘束にならないよう十分気を付けている。	職員一人ひとりが、利用者の安全確保及び自由な暮らしの支援を目標に「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をより理解するよう努めると共に、職員会で話し合う機会を多く持ったり、職員の資質向上のための勉強会等を継続的に行うことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入居者の人権を保持し、職員同士の気を配りながら穏やかに生活できるよう心がけている。虐待は暴力だけでなく言葉でもありうることを自覚する。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 他者に説明できるほど理解している者は少ないと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、医療連携体制、重要事項説明書、見取りの体制について説明し、不安な点は、電話対応にいつでも応じられることを伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の希望がかなえられるよう傾聴している。家族の方からの要望は、意見箱や、訪問時に聞き取りをしている。 (外部評価) 家族には面会時に確認したり、運営推進会議等で要望や意見を聞いており、出された意見は、職員間での話し合いを行い、利用者のサービス向上に活かしている。利用者や家族、代表者、職員が参加の親睦会を開催し、食事を一緒に食べながら話をし、家族からの意見の集約をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングや様々な機会に、意見や考えを伝えられる場を設けている。またより良い発想が得られるよう働きかけている。 (外部評価) 職員全員で、月1回ミーティングを開催し、利用者に関する事故報告や改善対策等の意見交換を行っている。また、気づきノートに利用者の日頃の様子等をこまめに記入し、職員間で情報の共有を行うなど普段から職員が管理者に意見を気軽に言える環境が整えられている。また、資格取得についても積極的に支援しており、職員からの希望があれば随時対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 親睦会をとうして代表者との交流が図れ、意見が述べられる機会がある。日頃の努力や勤務状況を把握し、働き甲斐のある職場環境を作ろうと努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人として研修会に参加したり、参加希望する意欲ある職員も増えてきている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流はあまり図れていないので、今後努力したい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前、施設内を見学して頂き、希望、困っていることを把握し、安心した生活が送れる様なれたものを持ち込んで、生活環境がかわらないよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と家族の関係も考え、継続した関係が信頼につながれるように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要順位を見極め、今後変化すると見られるサービス内容も含め、協力し要望にそえるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一日の中で、自分で出来ることの喜びを見付けてもらうようお礼の言葉は忘れずに伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ケアプランの見直しや行事参加など、そのつど連絡を取り、希望や意向の変化など伺っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族の方の意向で自宅や病院受診に行かれることもあり、自由に過ごせることでステレスなく過ごしてもらいたい。	
			(外部評価) 利用者の知人や友達が面会に来ている。また、入居前に生活していた自宅やお墓が気になる利用者は、家族に協力してもらい家やお墓参りに行っており、利用者の希望が叶えられるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 孤立しそうな方には疎外感を与えないよう職員が声かけし、介護度や関係を把握してみなが落ち着いて過ごせるよう努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じ、本人の状況、これまでのケアの工夫などの情報を詳しく伝え、穏やかな暮らし方の継続に配慮してもらえるよう支援する。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握しようと努めている。 (外部評価) 職員は、利用者や家族の思いや要望を聞き取り、申し送りノートに記録し、職員間で情報を共有している。また、認知症の進行により意思疎通困難な利用者は、声かけしながら表情や行動等で思いや意向の把握に努めている。	利用者の個々の思いや意向の理解を深めるために、職員の気づきや利用者の言葉や行動を記録に残すと共に、ケアの振り返りを行うなど、利用者ケアの質のさらなる向上が図られることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前アセスメントを行い、記録し、チームで情報を共有できるようにしている。守秘義務あり。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々に過ごし方があり、生活のペースを乱さないよう手助けしている。バイタル測定、容体観察を行い、異常の早期発見に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族に意見を聞き、今までの生活を尊重し、チームできずき合えるケアプランを立てている。 (外部評価) 介護支援専門員が介護計画を作成しており、介護計画には認知症ケアにかかわることが事細かく記載されており、試行錯誤により、よりよいケアに取り組んでいることが伺え、介護計画は個別のファイルに綴り、どの職員でも把握できるように努めている。	 介護計画は、利用者がよりよく暮らせるようになるため見直しをすることが基本であるが、介護計画の見直しに活かせるような記録の取り方にはなっていないので、介護記録の書き方について職員間でよく話し合うことにより、介護計画に活かし利用者本位のケアに繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者のと会話や、対応を詳細に記録できるものもいるが、ばらつきがあるので、日々のきずきがひつようである。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 今出来ることを見つけ、柔軟な姿勢で対応している。また家族の高齢化による状況変化の要望にも応じられるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防訓練、夏祭り見学など、安全で心豊かな暮らしが出来るよう活用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医の計測的な医療を受け、異常の早期発見が出来るよう 努力している。 (外部評価) 運営法人の内科医院内に開設されており、往診体制も整って いる。ほとんどが医院の受診者であるため、かかりつけ医に している利用者が多い。また、眼科、外科、整形外科の専門 外来を通院する利用者は、家族の付き添いにより通院してい るが、家族の都合が悪い場合は、職員が付き添う等の支援を している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 現在、看護職も多く、注意深く観察し日々健康管理を行って いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 当施設外来で内科的な医療が受けられ、常に状態が把握でき 情報を共有し、本人家族にも説明し安心していただしてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医と連携をとり、終末期に対応できる体制であることを 伝え、対応について検討し、気持ちに寄り添いながら対応し ている。 (外部評価) 療養病床から移行した事業所で、法人の医院が1階にあるた め、経験豊富な看護師も多く看護体制も充実し、終日医療体 制が整っているため、終末期ケアについては、家族も安心し て任すことができおり、利用者や家族の要望により3名の 終末期のケアを行っている。	地域の医療環境の事情から、事業所における重度化や 終末期に向けた支援の必要性は高く、地域からも期待 されており一目置かれた存在である。「重度化及び看 取りに関する指針」を整備し、職員間で話し合いの機 会を増やすなどし支援に役立てて欲しい。今後は、重 度化や終末期に向けた研修会や勉強会を行うなど職員 の不安軽減に繋がる取組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護職が多く、急変時には不安はあまりないが、事故発生時対応は訓練が必要。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練、消火訓練、通報訓練を年二回行っている。 (外部評価) 夜間想定も含め、年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。緊急時における地域の協力については、話す機会を設けるよう努めており、高齢者が多いため難しい面もあるが、災害時に事業所が地域の避難場所として指定されていることもあり町内会との連携は図られている。緊急連絡網の作成はしているが、訓練までには至っていないので今後は緊急連絡を含めた訓練を予定している。また、備蓄品は十分備えられている。	事業所の災害対策について、災害時の職員緊急連絡網が整備されているが、実践の訓練をしていないので、連絡体制を再確認する意味でも職員への周知徹底を含めた訓練ができることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者に対する言葉かけに注意し、性格にも配慮しているが、馴れ合いになりすぎるときもある。 (外部評価) 日常ケアのあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう声かけ等に気をつけている。また、目を見て背中をさすりながら利用者のプライドを傷つけないように接するなど、利用者が心身ともに良い状態で生活できるよう支援しており、排泄時や入浴時の羞恥心への配慮もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望が言えるような関係を作りたいと努力しているが、意思表示できない方もいるので、表情から読み取られるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな流れはみな一緒であるが、日中の過ごし方は邪魔しないようお昼寝や、レク、テレビなど様々である。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿った衣服選びや、介助が必要な方の髭剃り爪切り洗面などチームで注意している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事形態は状態に合わせ粥刻みとろみなど工夫して安全に食事が取れるようにしている。準備や後片付けは介護度高くできていない。 (外部評価) 事業所内の厨房で調理の上配膳し、利用者の状態に合わせた食事形態にも随時対応しており、利用者と一緒におやつを手作りしたりもしている。胃ろう等の経管栄養については、看護師による管理ができています。また、家族とは一緒に外食を楽しめているが、今後は事業所としても外食の機会を持つなど利用者がより食事を楽しめるよう支援したいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取量、水分量をチェックし、食事の形態も必要時変更している。また声かけしなければ水分不足の方もおられ、脱水に注意し声をかけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) うがい、入れ歯洗浄などそれぞれに応じたケアをしている。必要に応じ歯科医の受診も可能。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、個々に応じた声かけ、パットの種類変更を行い、トイレ後の始末をしている。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて排泄チェック表により管理しており、利用者の尊厳には十分配慮の上声かけをしトイレ誘導をしている。また、重度化した利用者にはおむつの使用者も多いため、身体状態に配慮しながら一人ひとりに合った排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示により下剤を用いるものもいるが、水分や散歩による便秘解消も心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日にバイタル異常ある方は避け2/w回提供を目標としているが、拒否される方には無理強いせず、注意している。	
			(外部評価) 浴室は広くゆったりとし、座位バランスがとりやすい家庭浴槽となっており、一人ずつ声かけを行いながら、週2回安全に入浴できるようになっている。身体状態に合わせて数名の職員が介助する体制を整え支援している。また、一人ひとりの好みのシャンプー、リンス、ボディソープ等を用意し入浴を楽しんでいるが、入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく外出から帰った時に声かけするなど、工夫をし入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 部屋の明るさや、寝具、私服の調節をし、入眠しやすいよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬時確認し服用介助を行い、変更時送りノートにて記入し、情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 可能性を発揮できる場を設け、お手伝いをさせていただいている。塗り絵や歌を歌ったりと気分転換が図れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 不十分である。 (外部評価) 天気の良い日には、近所を散歩したり花見に行ったり、利用者の要望に応じ気分転換が図れるよう支援している。また、重度化した利用者は、本人の希望があっても外出が困難であるが、家族の協力により希望を叶えられるよう支援している。	管理者も含め職員は、利用者の外出の大切さは理解しているため、今後は外出する機会を増やし、一人でも多くの利用者が外出を楽しめるようになることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持すると場所を移したりとトラブルになるので現在の所できていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには光が入り、明るく開放的であり、季節の花も職員が持ち寄ったりしている。 (外部評価) 廊下が広いので、ゆったりと歩くことができる。2階の広々としたリビングルームには、広い食卓と椅子が置かれ、3方向を広い窓ガラスで囲まれているため、光がたくさん取り込まれ明るく開放感がある。また、季節感のあるクリスマスツリーが飾られていたり、利用者は思い思いの場所で落ち着いた気分できつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) レクリエーション、食事など定位置であり、気のあった方同士にこやかに過ごされていて、トラブルがないよう努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅から写真や手作りの物を持ってこられている。落ち着いた生活が送れる様努めている。 (外部評価) 居室には、ベッド、床頭台、エアコン、整理ダンスが備え付けられている。転倒リスクの高い利用者には、ベッドの高さが調節できるようになっている。自宅で愛用していた籐椅子や位牌を持ち込んでいる利用者もいる。また、出入口には利用者が自分の居室がわかりやすいよう暖簾が掛けられるなどの配慮が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部は手すり設備、バリアフリーである。浴室トイレにブザーもあり、居室が理解できていない方は、ぬいぐるみ、折鶴などで目印をつけている。	